

## 平成26年度三次市公共事業評価監視委員会【議事要旨】

開催日時 平成27年2月4日（水） 15時25分開会 16時30分閉会

開催場所 三次市役所603会議室

出席委員 戸田常一委員長，高井広行委員，前田奈美委員，田村謙宗委員

※松岡真理子委員は欠席

市出席者 津森副市長（諮問のみ）

水道局 坂本局長，土山水道課長，原係長，細美主任

地域振興部 長田企画調整課長，林主任，杉谷主任主事

### 議事

戸田委員長の進行により議事に入る。

議事録署名人として，田村委員，前田委員が指名された。

#### 1 田幸地区水道未普及地域解消事業の概要説明

事務局 （水道課より事業の概要説明）

委員 残事業の給水・配水は，藤谷ポンプ所・配水池を使うのか？

事務局 はい。

委員 ここに係る事業費は，配水管工事費のみか？

事務局 配水管工事に加えて，加圧ポンプ所2ヶ所がある。参考資料1のとおりです。

委員 1点目として，参考資料1では，残事業の1人あたり事業費が算出しているが，市街地ではどの程度の1人あたり事業費となっているのか？市街地と比較した場合に，この事業費がどうなのか聞いてみたい。

事務局 市街地は，人口集中しており，管径も大きくなります。その分のコストはかかるが，1人あたり事業費は抑えられています。

委員 投資額が多くなると，原価も大きくなる。その点を考慮し，損得を勘定しないとイケないと思う。

委員 2点目は，4ページについてだ。給水開始人口の合計が今後275人増えるという記載になっている。人口予測をする際，今後人口が減少するということが，給水に直接影響を与える高齢化の視点などの考慮はされているのか。

- 委員 最後に、安く水を供給するには共通水源にするなど考えられるのではないか。特に居住がまばらな地区については、地域特性を考えて合理的なやり方があるのではないか。上下水道事業は特にお金がかかる事業であり、一律に事業を行うのではなく、工夫すれば、市の財政的にプラスとなる。せつかく事業拡張したのに3年後に住む人が誰もいなくなつてはせつかくの事業・投資の意味がない。そういうことを考えて、事業に取り組んでもらいたい。
- 委員長 3点あった。市街地における水道事業の1人あたりの単価について、何か積算資料はあるか。
- 事務局 都市部は老朽管の更新が中心となっており、1人あたり事業費は出していません。新規の敷設がない状況であり、今回の事業は未普及地域への配管となるので、比較は難しいです。
- 委員 市街地のほうが効率は良いと思う。今回の事業においても、市街地の1人あたり事業費に近づける努力は必要であり、目安となる資料を持つべきである。
- 事務局 都市部は昭和40年代の管敷設であるため、資料が無く比較できません。申し訳ございません。
- 委員 換算できると思う。以後チェックしてもらいたい。
- 委員長 委員の質問は、この事業に無駄はないのかという趣旨である。簡易水道事業であれば、昨年の上良坂と比較してどうかなど、比較は可能である。昨年より今年の配水池が上等だったという印象がある。資料を確認して、後程回答してもらいたい。2点目の人口推計についてだが、高齢化や人口減少が加味した推計になっているかどうか。この点については、どうか。どのように推計したのか？
- 事務局 第2次総合計画の推計値を使用しています。
- 委員長 最上位計画に準じているということだ。この点については、本事業においては問題ないと思う。3番目は共通水源の考慮についてだが、昨年も同様の意見が出た。昨年の意見を踏まえて取り組んでほしい。厚労省のマニュアルに沿った形の評価にはなっている。このマニュアルの妥当性がポイントである。補助事業である限り、マニュアルに準じないといけないが、県・国に対して、便益計算の別の方法を市として提示する姿勢もあってよいのではないか。

- 委員 マニュアルどおりに行うと公共事業は膨大な事業量になる。地域に応じた、効率の良い事業を行っていくことが重要であり、それができる賢い自治体が生き延びていくのだと思う。
- 委員長 1点目については、後程回答する。2点目は総合計画を使っている。3番目はマニュアルどおりに行っている。補足説明があるか。
- 事務局 3番目については、1件1件離れている不便さ、井戸を掘っても、水があるかどうかという不安要素があります。密集しているところに本管を通し、必要水量を確保するという工夫も行っています。
- 委員 実際には、水道管を引いても井戸水は止めずに併用することになる。100%給水を使うことはなく、併用される場合が多いと思う。
- 事務局 そういう人は実際いらっしゃると思います。
- 委員 こういった点も踏まえて、整備を検討する必要がある。
- 委員長 共通の井戸について、水が出るかどうか、そのことが問題ではないと思う。1人でも水道がなければ、その人にとって必要かどうかという視点での話であり、井戸水が出るかどうかということは別にした仮想的な話である。仮想的な状況の中での試算を行っており、実際出るかどうかは別の話だ。
- 委員 事前説明と違う点があるので、説明をいただきたい。10ページの全事業の投資効率性の部分だ。中止した場合の便益・費用について、事前説明の場合は0円となっていたように思うが。
- 事務局 マニュアルに沿って資料を作成しましたが、戸田委員長に指摘いただいた内容を、広島県・国へも相談した上で修正しました。継続した場合の便益・費用には全体事業を、中止した場合の便益・費用には平成25年度までの事業を計上しています。結果は同じになるが、計算式を修正したものです。
- 委員長 マニュアルの読み取りの理解について正確を期することが必要であると思う。この面からみると、この度の便益計算においては慎重に計算されている。
- 委員 ヒ素が出たという話があったが、その除去費用は便益に含まれないか。ヒ素が出たら井戸はその後全く使えないのか。
- 事務局 それ以前から、水道要望もありましたが、公民館の井戸でヒ素が出たことがきっかけとなったということです。便益の中にはヒ素の除去費用は

含まれません。

- 委員 代替案がないのは、ヒ素が出たためだと思っていた。
- 委員 人口減少・高齢化について、水道事業においてもどのように加味するの  
かということは、難しい課題だと思う。事業決定にあたっては、多方面  
から意見を聞くなど、慎重な検討が必要だと思う。
- 委員長 高井委員の1点目の質問、三良坂との比較についてどうか。
- 事務局 三良坂は1人あたり25万1千円、田幸は1人あたり120万円です。  
三良坂は管路網の整備のみですので、かなり安価となっており、比較す  
るのは困難です。
- 委員長 今後事業を行う上では、類似地域と比較するようにしてもらいたい。無  
駄を省くという視点で取り組まないといけない。意見として申し述べる。
- 委員 事業を行う場合には、目安を頭に入れた上で判断を行う必要がある。
- 委員長 事業の入札を行う場合、予定価格の積算根拠等については、別の委員会  
でもチェックがあると思う。そのように事業を確認していくことが大事  
である。もう1点注意をしていただきたい点がある。ファイルの最初の  
ページと最後のページ。1人あたり事業費について、全体事業と残事業  
を比較すると、残事業のほうが費用がかかっている。次にB/Cを比較  
すると、全事業が2.60、残事業が5.94と全事業のほうが2倍以上  
効率が悪くという結果である。逆の結果が出ていることを事務局とし  
て理解すべきである。その理由は、簡易水道特有の残事業の計算方法  
である。便益を計算する際に、50年のスパンで何回も作り直す部分が  
残事業に全て入っている。本来であれば、本日の現地視察で最後に見た  
区間の事業費のみでB/Cを出すべきだが、マニュアルどおりにやると  
先ほど言った計算になる。本来の残事業のみを計算すると別の結果が出  
る可能性がある。その点をしっかり理解しておいてもらいたい。B/C  
が1以上ならいいという、安易な考えを持たないようにしてもらいたい。
- 委員長 いろいろなお意見をいただいたが、総合的に判断すると「田幸地区水道  
未普及地域解消事業」については、事業を継続することが妥当と判断し  
てよろしいか。
- 出席委員 異議なし
- 委員長 ご意見は、後日、意見書として市長へ提出する。意見書と議事録のまと  
め方については、私と事務局で調製した後、もう一度みなさんの意見を

聞く機会を設けたいと思う。意見を聞いた上で、最終案の作成については、私と事務局に一任していただきたい。

出席委員

異議なし

委員長

そのようにさせていただく。本日の会議の議事録等については、事務局の方で調製する。以上をもって、会議の全てを終了する。

(終了16:30)